

東日本大震災で被災した排水機場の能力増強に伴う 維持管理費の増加を太陽光発電の売電益で充当

宮城県
仙台市

仙台市の「大沼」(仙台市若林区荒井)は農業用ため池として利用されており、田園が広がる七郷地区内の約130haに灌漑をしている農業水利施設です。

平成27年3月に「大沼」の水辺に完成した太陽光発電所は、年間約56万kWhを発電しています。



発電所概要

- ・発電事業者／仙台市
- ・施設名称／大沼太陽光発電所
(設備認定名称：仙台東部地区太陽光発電所)
- ・所在地／仙台市若林区荒井字軽石地内
- ・敷地面積／7,000㎡
(うちパネル設置面積3,400㎡)
- ・太陽光パネル枚数／2,072枚
- ・発電出力／500kW
- ・年間発電電力量(推定)／約56万kWh
- ・農林水産省農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用

2,072枚の
太陽光パネル
を設置



大沼太陽光発電所の役割

東日本大震災発生

排水機場が破損、また、仙台市東部では、約50cmの地盤沈下が生じ、海面より低い土地が広がるなど、水が溜まりやすい状態

排水機場を改修し、排水能力を従来の約2倍の設備に増強

しかし

排水機場の電気代、燃料代などの維持管理費が増加するため、農業者の生産コストが上昇

そこで

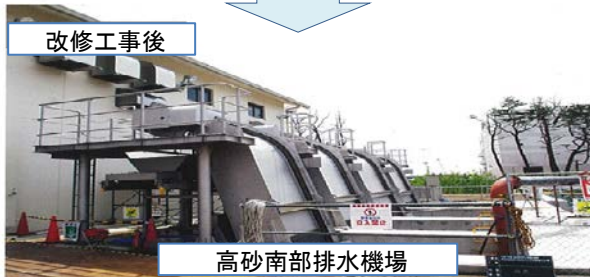
太陽光発電所を設置し、その売電収入を仙台市東部の4つの基幹排水機場の維持管理費に充てることで、農業者の生産コスト上昇の抑制に努める

仙台東部地区の排水機場の様子

被災直後



改修工事後



高砂南部排水機場

排水能力増強

5.15m³/秒 → 10.7m³/秒

さらに

太陽光発電所の整備を契機に環境保全活動に取り組む

行政機関や土地改良区等の農業団体の視察研修を通じ、環境保全の意識向上、地域間交流を積極的に推進

農業・農村の活性化を図る

問い合わせ先

仙台市経済局農林部 農林土木課 TEL: 022-214-8268